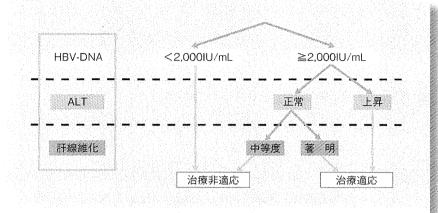
図 1… HIV 感染患者における治療指針



*: HBV-DNA 1 IU/mLは約5.8 copies/mLに相当します。したがって、換算すると2,000 IU/ mLは4.06 log copies/mL (11.600 copies/mL)となります。

变5000

障害のためテノホビルを他の薬剤に切り替える必 要が出た場合は、ARTに加えエンテカビルを併 用することが一般的です。

3. おわりに (学型A)

今後、HIV/HBV 重複感染例は増加するものと 思われます。現状ではHIV診療に習熟した施設 でのフォローアップ・加療が適切ですが、近い将 来多くの肝臓専門医が対応できるようになりたい ものです。

河文献

- 1) Operskalski, EA, et al. HIV/HCV co-infection; pathogenesis, clinical complications, treatment, and new therapeutic technologies. Curr. HIV/AIDS Rep. 8, 2011, 12-22.
- 2) Vincent, S. et al. Care of HIV patients with chronic hepatitis B: updated recommendations from the HIV-

- Hepatitis B Virus International Panel. AIDS. 22. 2008, 1399-410.
- 3) Koike, K. et al. Prevalence of hepatitis B virus infection in Japanese patients with HIV. Hepatol. Res. 38, 2008, 310-4.
- 4) Puoti, M. et al. Natural history of chronic hepatitis B in co-infected patients. J. Hepatol. 44, 2006, 65-
- 5) Puoti, M. et al. Henatocellular carcinoma in HIVinfected patients: epidemiological features, clinical presentation and outcome. AIDS, 18, 2004, 2285-93.
- 6) Thio, CL. et al. HIV-1, hepatitis B virus, and risk of liver-related mortality in the Multicenter cohort Study (MACS). Lancet. 360, 2002, 1921-6.
- 7) Guidelines for the Use of Antiretroviral Agents in HIV-1 infected Adults and Adolescents, October 14, 2011, DHHS Panel on Antiretroviral Guidelines for Adults and Adolescents, 2011,
- 8) 平成23年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究 事業「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究 班」編. 抗HIV治療ガイドライン. 2011.

綜 合 臨 牀 第 60 巻 第 1 号 (平成23年1月1日発行 別刷)

C型肝炎に対する抗ウイルス療法による発癌予防

Prevention of hepatocellular carcinoma by antiviral therapy in chronic hepatitis C

今井 康陽 IMAI Yasuharu

永 井 書 店

○型肝炎に対する抗ウイルス療法による 発癌予防

Prevention of hepatocellular carcinoma by antiviral therapy in chronic hepatitis C



今井康陽 IMAI Yasuharu

肝炎診療の新たな展開

Key words 肝細胞癌 C型肝炎 インターフェロン 高齢者 発癌予防

これまで、C型肝炎においてインターフェロン(IFN)治療が肝細胞癌の発症を抑制し、さらに生命予後を改善することが報告されている^{1)~8)}. 一方で、わが国において C型肝炎患者の高齢化が進み¹⁾⁵⁾, これら高齢 C型肝炎患者における IFN 治療の適応に苦慮することも多くなってきている.

今回, C型肝炎患者, とくに高齢患者における IFN 治療を中心とする抗ウイルス療法による発癌予防について概説する.



日本における C型肝炎患者の 高齢化と発癌

わが国において、C型肝炎患者の高齢化が進んでいる。C型肝炎ウイルス(HCV)抗体検査が献血に導入されてすぐの大阪府の初回献血者の出生年代、男女別のHCV 抗体陽性率の検討では、1930年前後生まれ、すなわち現在70歳代の高齢者では、HCV 抗体陽性率が男女とも7~8%と非常に高率であり、若年になるほどHCV 抗体陽性率は低下している100.このうちの約7割がHCVキャリアと推定される。現在、HCVキャリア率を正確にもとめる手段はなく、このHCV 抗体陽性率が、大阪府における最も現実に近い値と考えられる。そして、これらHCV 抗体陽性率のきわめて高い高齢HCVキャリアから多くの肝細胞癌が発生している109.わが国におけるC型肝炎の

市立池田病院(池田市)消化器内科 副院長

0371-1900/11/¥50/頁/JCOPY

ピークが1930年前後生まれにあることは、分子時計の概念を用いた分子疫学的手法によっても推定されている。すなわち、第2次世界大戦前後に1930年前後生まれの人を中心に、ヒロポンの流行、売血、輸血、静脈注射などによりわが国にC型肝炎が蔓延したと考えられる⁹⁾¹¹⁾.

図1にFI-4の同じ線維化スコア,すなわち組織学に同じステージである IFN 未治療例,あるいは IFN 無効例の C 型慢性肝炎患者の年齢別累積発癌率を示している. F1は発癌率そのものが低率であるが,F2-4とも有意に60歳以上の高齢 C 型肝炎において60歳未満に比し肝細胞癌発症率が高率であることがわかる. したがって,高齢者においては慢性肝炎でも高い発癌率であり,とくに線維化進展例では,合併症等を考慮したうえで,積極的に IFN 治療を行い,発癌を予防すべきであると考えられる.

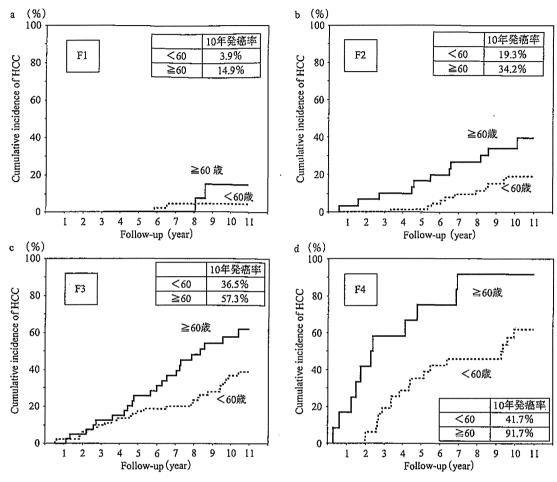


図1 年齢別, 肝線維化別に見た累積発癌率, F1(a), F2(b), F3(c), F4(d)



IFN 単独治療による発癌抑制効果

これまで、われわれは大阪大学消化器内科関連 施設のC型肝炎患者においてIFN単独治療が、 発癌抑制効果があることを報告してきた1)3)4). 1992~1995年の間に、6ヵ月間のIFN 単独治療 を受けた568例(IFN 群)および未治療の157例(対 照群)のC型肝炎患者を対象として,60歳以上, 60歳未満で IFN の発癌抑制効果について検討し た(平均観察期間は9.5年)1.

まず、725例を用いた Cox 比例ハザードモデル による肝細胞癌発症に寄与する因子の解析を行っ たところ、年齢、性、組織学的線維化、組織学的 活動性, そして IFN 治療(リスク比0.57, 図2)が

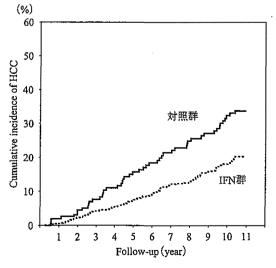


図 2 IFN 群, control 群の累積発癌率(文献1より引用)

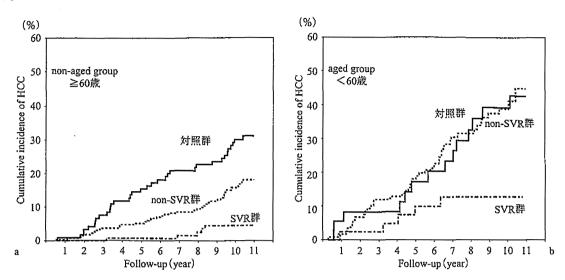


図3 年齢別,治療効果別にみた IFN 群, control 群の累積発癌率 non-aged group(<60歳)(a), aged-group(≧60歳)(b)(文献1より引用)

表 1 1992~1995 年に 6ヵ月の IFN 単独治療を受けた C 型肝炎患者の年齢別, IFN 治療効果別にみた Control 群に対する発癌のリスク比

	non-	non-aged group (60歳未満, n=5			aged group(60歳以上, n=194)			
	n	Risk It	95% CI	P値	n	Risk 比	95% CI	P値
対照群	121	1.00	_		36	1.00	_	
IFN 群	410	0.52	0.33-0.81	0.004	158	0.77	0.42-1.40	0.388
SVR	134	0.20	0.08-0.50	0.001	41	0.23	0.08-0.64	0.005
Relapse	163	0.47	0.26-0.86	0.015	57	0.67	0.32-1.43	0.303
Nonresponse	113	0.86	0.51-1.47	0.584	60	1.46	0.77-2.78	0.245
•							0.77	

(文献1より引用)

発癌と関与する有意な因子であった. Cox 比例ハザードモデルによる IFN 群の治療効果別, すなわち SVR (Sustained Virological Response, 著効) および non-SVR (Non-sustained Virological Response, 非著効) 別の対照群に対する発癌のリスク比は60歳以上において, SVR, non-SVR それぞれ0.23, 1.07, 60歳未満でそれぞれ0.20, 0.65であり, 60歳以上では non-SVR で IFN による発癌抑制効果が見られなかった(図3,表1).

さらに、non-SVR を IFN 投与中 ALT の正常 化が見られたが終了後経過観察中に ALT の異常 がみられた relapse (再燃) と、IFN 投与中 ALT の正常化が見られなかった nonresponse (無効) に 分けて対照群に対する発癌のリスク比を検討した ところ、60歳以上の無効例が対照群に対するリス ク比が1.46ときわめて発癌のリスクの高い集団で あった(表1).

以上の結果は、1992~1995年の間に6ヵ月間のIFN 単独治療を受けた患者群の成績であるが、Kurokawa らは、大阪大学消化器内科関連施設のIFN・Ribavirin 併用療法を受けたC型慢性肝疾患で発癌抑制効果を検討している⁸. その結果、SVR あるいは ALT が IFN 治療後に40IU/L 未満になることが発癌抑止につながると報告している。



肝細胞癌根治後の IFN による 発癌抑制効果

肝細胞癌の肝内再発率は年率15~20%程度, 5 年後再発率80~90%と高く, 肝細胞癌根治後の IFN 治療による再発抑制効果に関する報告も多

い¹²⁾⁻¹⁴⁾. Kubo らは肝細胞癌根治的切除後の C 型慢性肝疾患30症例を対象に natural IFNaの再 発抑制効果を randomized study で検討し、再発 が抑制される傾向と生命予後の改善がみられたと 報告している¹²⁾. Shiratori らは PEIT にて肝細 胞癌根治治療を行った C型肝硬変を対象として natural IFNaの48週投与群と control 群で肝細胞 癌の再発を検討し、1回目の再発では両群に差が 認められなかったが、2、3回目の再発はcontrol 群に比し IFN 群で有意に低く, 生存率も改 善したと報告している. 新規に発生してくる多中 心性発癌を IFN が抑制した結果と考えられる13). Kudo らも、肝細胞癌に対するラジオ波焼灼療法 による根治治療後の C 型慢性肝疾患患者を対象 に IFN 治療を行い同様の結果を報告している¹⁴⁾.

しかしながら、現在高齢化している C 型肝炎 関連肝細胞癌の根治後に、IFN 治療がどこまで可 能かどうか、あるいはこれまでの報告のように発 癌抑制効果が得られるかは、あらためて検討する 必要があると思われる.



FN 少量長期投与による発癌抑制 効果

発癌抑制を目的に、IFN 少量長期投与が行われ ている. Arase らは、高齢C型肝炎患者(平均年 齢63歳) において、natural IFNα 300万単位を週 2~3回投与群(平均投与期間2.5年)と、非投与 群で発癌率を比較している15. その結果,有意に IFN 治療により発癌が抑制された(Odds ratio 0.30) と報告している. 一方, 欧米で行われた前 向き比較試験である Hepatitis C Antiviral Long-Term Treatment against Cirrhosis trial (HALT-C)で、PEG-IFN・Ribavirin 併用療法無 効例に対する PEG-IFNα2a 少量長期投与が C 型

前肝硬変・肝硬変において肝発癌・肝不全を抑制 しなかったことが報告された16, ただし、わが国 と比べると若年であり、発癌率(観察期間中央値 4.6年) も、PEG-IFNα2a 投与群, 非投与群でそ れぞれ4.7%, 4.9%と低率であった. しかし、そ の後の経過を6.1年(中央値)まで延長して観察し たところ,サブグループ解析において,PEG-IFNα2a 治療群は無治療群に比し、肝硬変患者で は肝細胞癌発生頻度は有意に低かった(p=0.01) と報告された16). また、PEG-IFNα2a 投与群にお いて、HAI スコアが2以上減少した患者で、有 意に肝細胞癌の発生が低率であった(p=0.03)¹⁷⁾.

発癌のリスクの高い高齢C型肝炎患者が多い わが国において、少量長期の IFN 治療による発 癌抑止効果についてのさらなる evidence の蓄積 が必要と考えられた.



おわりに

高齢者 C 型肝炎では、合併症を十分に検索し たうえで、個々の患者の予後が C 型肝炎によっ てどの程度規定されるかの推定が重要である、線 維化進展例では発癌のリスクが高く、高齢者では 慢性肝炎でも肝細胞癌で死亡する確率が高い. ま た, SVR 率は IL28B 遺伝子多型等の宿主因子, Core70アミノ酸変異等のウイルス側因子により SVR 率が大きく異なる. これらを総合的に考慮 したうえで、SVR を目指した PegIFN・Ribavirin 併用療法,PegIFN 単独療法あるいは少量長期の IFN 治療の適応を決定することが発癌抑止につな がると考えられる、また、今後セリンプロテアー ゼ阻害剤をはじめとする STAT-C(Specifically Targeted Antiviral Therapy for HCV) の登場に より、より高い SVR 率、発癌抑制効果が期待で きると考えられる.

1) Imai Y, Tamura S. Tanaka H, et al : Reduced risk of hepatocellular carcinoma after interferon therapy in aged patients with chronic hepatitis C is limited to sustained virological responders. J Viral Hepat 17: 185-191, 2010.

80 綜合臨床 2011.1/Vol.60/No.1

- Nishiguchi S, Kuroki T, Nakatanl S, et al: Randomised trial of effects if interferon-α on incidence
 of hepatocellular carcinoma in chronic active hepatitis C with cirrhosis. Lancet 346: 1051-1055,
 1995
- Imai Y, Kawata S, Tamura S, et al: Relationship of interferon therapy and hepatocellular carcinoma in patients with chronic heaptitis C. Ann Intern Med 129: 94-99, 1998.
- Kasahara A, Hayashi N, Mochizuki K, et al: Risk factors for hepatocellular carcinoma and its incidence after interferon treatment in patients with chronic hepatitis C. Hepatology 27: 1394-1402, 1998
- 5) Yoshida H, Shiratori Y, Moriyama M, et al: Interferon therapy reduces the risk for hepatocellular carcinoma: national surveillance program of cirrhotic and noncirrhotic patients with chronic hepatitis C in Japan. Ann Intern Med 131: 174-181, 1999.
- 6) Okanoue T, Itoh Y, Minami M, et al: Interferon therapy lowers the rate of progression to hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C but not significantly in an advanced stage; a retrospective study of 1146 patients. J Hepatol 30: 653-659, 1999.
- 7) Ikeda K, Saitoh S, Arase Y, et al: Effect of interferon therapy on hepatocellular carcinogenesis in patients with chronic hepatitis type C: A long-term observation study of 1.643 patients using statistical bias correction with proportional hazard analysis. Hepatology 29: 1124-1130, 1999.
- Kurokawa M, Hiramatsu N. Oze T, et al: Effect of interferon alpha-2h plus ribavirin therapy on incidence of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis. Hepatol Res 39: 432-438, 2010.
- Tanaka H, Imai Y, Hiramatsu N, et al: Declining incidence of hepatocellular carcinoma in Osaka, Japan, from 1990 to 2003. Ann Intern Med 148: 820-826, 2008.
- 10) Tanaka H, Hiyama T, Tsukuma H, et al: Prevalence of second generation antibody to hepatitis C virus among voluntary blood donors in Osaka, Japan. Cancer Causes Control 5: 409-413, 1994.
- 11) Tanaka Y, Kurbanov F, Mano S, et al: Molecular tracing of the global hepatitis C virus epidemic predicts regional patterns of hepatocellular carcinoma mortality. Gastroenterology 130: 703-714, 2006.
- 12) Kubo S, Nishiguchi S, Hirohasi, et al: Randomized clinical trial of long-term outcome after resection of hepatilis C virus-related hepatocellular carcinoma by postoperative inter- feron therapy Br J Surg 89: 418-422, 2002.
- 13) Shiratori Y, Shiina S, Teratani T, et al: Interferon therapy after tumor ablation improves prognosisi in patients with hepatocellular carcinoma associated with hepatitis C virus, Ann Intern Med 138: 299-306, 2003.
- 14) Kudo M, Sakaguchi Y, Chung H, et al: Long-term interferon maintenance therapy improves survival in patients with HCV-related hepatocellular carcinoma after curative radiofrequency ablation. Oncology 72: 132-138, 2007.
- 15) Arase Y, Ikeda K, Suzuki F, et al: Prolonged-interferon therapy reduces hepatocarcinogenesis in aged-patients with chronic hepatitis C. J Med Virol 79: 1095-1102, 2007.
- 16) Di Bisceglie AM, Shiffman ML, Everson GT, et al: Prolonged therapy of advanced chronic hepatitis C with low-dose peginterferon. N Engl J Med 359: 2429-2441, 2008.
- 17) Lok AS, Everhart JE, Wright EC, et al: Maintenance peginterferon therapy to prevent hepatocellular carcinoma in patients with advanced chronic hepatitis C: extended follow-up results from the HALT-C trial. Hepatology 52, suppl: 428A-429A, 2010.

Hepatology Research 2013; 43: 35-43



doi: 10.1111/j.1872-034X.2012.01056.x

Special Report

A multicenter survey of re-treatment with pegylated interferon plus ribavirin combination therapy for patients with chronic hepatitis C in Japan

Tsugiko Oze,¹ Naoki Hiramatsu,¹ Eiji Mita,³ Norio Akuta,⁴ Naoya Sakamoto,⁵ Hiroaki Nagano,² Yoshito Itoh,⁵ Shuichi Kaneko,⁵ Namiki Izumi,⁶ Hideyuki Nomura,⁵ Norio Hayashi¹o and Tetsuo Takehara¹

Departments of ¹Gastroenterology and Hepatology and ²Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, ³National Hospital Organization Osaka National Hospital, Osaka, ⁴Toranomon Hospital, ⁵Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical and Dental University, 'Japanese Red Cross Musashino Hospital, Tokyo, ¹Molecular Gastroenterology and Hepatology, Kyoto Prefectural University of Medicine Graduate School of Medical Science, Kyoto, ³Department of Gastroenterology, Kanazawa University, Kanazawa, 'Shin Kokura Hospital, Kitakyushu, and ¹oKansai Rosai Hospital, Amagasaki, Japan

Aim: This study aimed to clarify the factors associated the efficacy of re-treatment with pegylated interferon (PEG IFN) plus ribavirin combination therapy for patients with chronic hepatitis C who had failed to respond to previous treatment. *Methods:* One hundred and forty-three patients who had previously shown relapse (n=79), non-response (n=34) or intolerance (n=30) to PEG IFN plus ribavirin were re-treated with PEG IFN plus ribavirin.

Results: Twenty-five patients with intolerance to previous treatment completed re-treatment and the sustained virological response (SVR) rates were 55% and 80% for hepatitis C virus (HCV) genotype 1 and 2, respectively. On re-treatment of the 113 patients who completed the previous treatment, the SVR rates were 48% and 63% for genotype 1 and 2, respectively. Relapse after previous treatment and a low baseline HCV RNA level on re-treatment were associated with SVR in genotype 1 (P < 0.001). Patients with the interleukin-28B major genotype responded significantly better and earlier to

re-treatment, but the difference in the SVR rate did not reach a significant level between the major and minor genotypes (P=0.09). Extended treatment of 72 weeks raised the SVR rate among the patients who attained complete early virological response but not rapid virological response with re-treatment (72 weeks, 73%, 16/22, vs 48 weeks, 38%, 5/13, P<0.05).

Conclusion: Relapse after previous treatment and a low baseline HCV RNA level have predictive values for a favorable response of PEG IFN plus ribavirin re-treatment for HCV genotype 1 patients. Re-treatment for 72 weeks may lead to clinical improvement for genotype 1 patients with complete early virological response and without rapid virological response on re-treatment.

Key words: chronic hepatitis C, pegylated interferon and ribavirin combination therapy, re-treatment

INTRODUCTION

 ${
m P}^{
m EGYLATED}$ INTERFERON (PEG IFN) plus ribavirin combination therapy can show antiviral efficacy for patients with chronic hepatitis C (CH-C). However, a

Correspondence: Dr Tetsuo Takehara, Department of Gastroenterology and Hepatology, Osaka University Graduate School of Medicine, 2-2, Yamadaoka, Suita City, Osaka 565-0871, Japan. Email: takehara@gh.med.osaka-u.ac.jp

Received 18 April 2012; revision 19 May 2012; accepted 21 May 2012.

sustained virological response (SVR), which is defined as undetectable serum hepatitis C virus (HCV) RNA at 24 weeks after the treatment, remains at 50% for patients with HCV genotype 1 and 80% for those with HCV genotype 2 treated with PEG IFN plus ribavirin. ¹⁻⁶ The number of patients who fail to achieve a SVR increases over time, requiring urgent action to eradicate HCV in them.

Recently, addition of the first-wave protease inhibitor telaprevir to PEG IFN plus ribavirin combination therapy, which has been reported to improve antiviral efficacy, has become commercially available, but this

triple therapy increases side-effects, especially severe anemia and skin rash.⁷⁻¹¹ Second-wave protease inhibitors, such as TMC435, which not only improve antiviral efficacy but also decrease side-effects, have been developed and are undergoing clinical trials.12 Also, IFN-free regimens, such as protease inhibitor and polymerase inhibitor combination therapy, have been developed. 13,14 In Japan, HCV carriers are increasing in an aging population, and large numbers of patients are ineligible for triple therapy with telaprevir due to potential anemia. That is why re-treatment with PEG IFN plus ribavirin is a possible choice for patients who failed to achieve SVR to previous antiviral therapy or patients ineligible for triple therapy with telaprevir who must wait until next-generation antiviral therapies, such as triple therapy with second-wave protease inhibitors or IFN-free regimens, become commercially available.

As for re-treatment with PEG IFN plus ribavirin, some studies have been reported but the subjects and treatment protocols were varied.15-20 According to past reports, the previous treatment response is associated with the efficacy of the re-treatment 17,20 and the SVR rates in re-treatment ranged 4-23%. 16-18 Recently, host factors, such as single nucleotide polymorphisms (SNP) located near the interleukin (IL)-28B gene, and virus factors, such as the amino acid substitutions in the HCV core region, were revealed to have a strong impact on SVR in PEG IFN plus ribavirin combination therapy for naïve CH-C patients. 21-26 Moreover, response-guided therapy which extends treatment duration until 72 weeks for patients with a slow virological response can raise the SVR rate for naïve CH-C patients. 27-29 However, the value of IL-28B SNP has been uncertain in re-treatment and the most appropriate treatment duration in re-treatment is still unclear. Although it remains obscure which factors are associated with SVR in re-treatment with standard PEG IFN plus ribavirin therapy as pointed out above, some patients do respond to re-treatment and it is very important to be able to identify them. Such findings will be valuable for optimizing the antiviral treatment for CH-C patients by making it possible to decide which patients should be considered for re-treatment with PEG IFN plus ribavirin therapy and which should wait for next-generation antiviral treatment.

In the present study, we tried to determine which patients could benefit from re-treatment and to identify the factors associated with SVR in re-treatment, including the host genome SNP and treatment duration.

METHODS

Patients

THIS RETROSPECTIVE, MULTICENTER study was conducted by the Study Group of Antiviral Therapy for Difficult-to-Treat Chronic Hepatitis C supported by the Ministry of Health, Labor and Welfare, Japan. This study was conducted with 143 CH-C patients, 113 patients (genotype 1, n = 86; genotype 2, n = 27) who had previously completed PEG IFN-α-2b plus ribavirin combination therapy but had failed to attain SVR, and 30 patients (genotype 1, n = 22; genotype 2, n = 8) who had previously discontinued this combination therapy due to adverse events.

Treatment

For the previous treatment, patients had been treated with PEG IFN-α-2b (PEGINTRON; MSD, Whitehouse Station, NJ, USA) plus ribavirin (REBETOL; MSD). For re-treatment with PEG IFN plus ribavirin, patients were treated PEG IFN-α-2a (PEGASYS; Roche, Basel, Switzerland) plus ribavirin (COPEGUS; Roche) or PEG IFNα-2b plus ribavirin. In principle, as a starting dose, PEG IFN was given once weekly at a dose of 180 µg of PEG IFN- α -2a and 1.5 µg/kg of PEG IFN- α -2b and ribavirin was given at a total dose of 600-1000 mg/day based on bodyweight (bodyweight, ≤60 kg, 600 mg; 60-80 kg, 800 mg; ≥80 kg, 1000 mg), according to the standard treatment protocol for Japanese patients and the decision of the investigator at the participating clinical center. Dose modification followed, as a rule, the manufacturer's drug information on the intensity of the hematological adverse effects.

Laboratory tests and virological assessment

Examination of peripheral blood, transaminase and the serum HCV RNA level were tested at the start of treatment, weeks 4, 12 and 24, end of treatment (EOT), and 24 weeks after the treatment. Sequences of the IFNsensitivity determining region (ISDR) and the core region of HCV were determined at start of the previous treatment, and the number of mutations in the ISDR, the amino acid substitutions at core 70 and 91, glutamine (Gln) or histidine (His) at core 70 and methionine (Met) at core 91, were analyzed. Genetic polymorphisms located near the IL-28B (rs8099917) and ITPA gene (rs1127354) were determined. As for the IL-28B gene, homozygosity for the major sequence (TT) was defined as having the IL-28B major allele, whereas homozygosity (GG) or heterozygosity (TG) of the minor sequence was defined as having

the IL-28B minor allele. As for the ITPA gene, homozygosity for the major sequence (CC) was defined as having the ITPA major allele, whereas homozygosity (AA) or heterozygosity (CA) of the minor sequence was defined as having the ITPA minor allele. The serum HCV RNA level was quantified using the COBAS AMPLICOR HCV MONITOR test ver. 2.0 (detection range, 6-5000 KIU/mL; Roche Diagnostics, Branchburg, NJ, USA) or COBAS TagMan HCV test (detection range, 1.2-7.8 log₁₀ IU/mL) and qualitatively analyzed using the COBAS AMPLICOR HCV test ver. 2.0 (lower limit of detection, 50 IU/mL). When the serum HCV RNA level quantified by the COBAS TagMan HCV test was less than 1.7 log₁₀ IU/mL, which was equivalent to 50 IU/mL of HCV RNA, that case was judged as HCV RNA negativiation against the lower limit of detection of the COBAS AMPLICOR HCV test.

Definition of virological response

A rapid virological response (RVR) was defined as undetectable serum HCV RNA level at week 4, partial early virological response (p-EVR) as a more than 2-log decrease in the HCV RNA level at week 12 compared with the baseline, complete EVR (c-EVR) as undetectable serum HCV RNA at week 12, late virological response (LVR) as detectable serum HCV RNA at week 12 and undetectable at week 24, and SVR as undetectable serum HCV RNA at 24 weeks after the treatment. Relapse was defined as undetectable serum HCV RNA at the EOT but a detectable amount after the treatment. Patients without p-EVR or without clearance of HCV RNA at week 24 were considered to be showing nonresponse (NR), and treatment was stopped in both the previous treatment and this re-treatment. A patient who attained HCV RNA negativiation during the re-treatment continued to be treated for 48 weeks or 72 weeks according to response-guided therapy or the decision of the investigator at the participating clinical center.

Statistical analysis

Baseline data of the patients are expressed as means ± standard deviation or median values. In order to analyze the difference between baseline data or the factors associated with SVR, univariate analysis using the Mann–Whitney *U*-test or χ^2 -test and multivariate analysis using logistic regression analysis were performed. A two-tailed P-value of less than 0.05 was considered significant. The analysis was conducted with SPSS ver. 17.0J (IBM, Armonk, NY, USA).

RESULTS

THE PATIENT FLOW in this study is shown in Figure 1. Among the patients who had previously discontinued PEG IFN-α-2b plus ribavirin combination therapy, two patients underwent splenectomy to increase platelet count prior to re-treatment, 25 completed re-treatment of PEG IFN plus ribavirin combination therapy and 15 achieved SVR (genotype 1, n = 11; genotype 2, n = 4).

All of the patients who completed previous treatment also completed re-treatment and the baseline characteristics of those patients are shown in Table 1. Of the 86 genotype 1 patients, 54 were relapsers and 32 had shown NR to previous treatment. Of the 27 patients with genotype 2, 25 were relapsers and two had shown NR to previous treatment. Thirty-seven patients with genotype 1 and 14 patients with genotype 2 were assessed as IL-28B genotype, and 27 patients with genotype 1 and 10 patients with genotype 2 were assessed as ITPA genotype. There was no significant difference in the baseline characteristics between the previous treatment and the re-treatment with respect to peripheral blood cell counts, amino transaminase level and serum HCV RNA at the start of treatment (Table 1).

The baseline characteristics of patients with genotype 1 according to antiviral efficacy of the previous treatment are shown in Table 2. Among those with NR in the previous treatment, the rate of the minor allele of IL-28B was significantly higher than those with relapse in the previous treatment (P < 0.01). For genotype 1, the HCV RNA negative rate on re-treatment was 20% (17/86) at week 4, 61% (52/85) at week 12 and 76% (65/86) at week 24, and the SVR rate was 48% (41/86). The factors associated with SVR were assessed by univariate analysis and the factors of relapse after previous treatment and the serum HCV RNA level at the start of re-treatment were selected as being significant (Table 3). The SVR

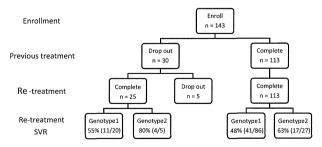


Figure 1 Patient flow for this study. SVR, sustained virological response.

Table 1 Baseline characteristics of patients and treatment factors in previous treatment and re-treatment

Factor	Genotype 1	Genotype 2
No.	86	27
Sex: male/female	46/40	15/12
Effect of previous treatment: relapse/NR	54/32	25/2

	Previous treatment	Re-treatment	Previous treatment	Re-treatment
PEG IFN type: α-2a/α-2b	0/86	41/45	0/27	6/21
Age (years)	58.1 ± 8.3	60.0 ± 8.5	58.9 ± 8.2	60.0 ± 8.1
White blood cells (/mm³)	4779 ± 1383	4610 ± 1443	5195 ± 1473	4724 ± 1266
Neutrophils (/mm³)	2478 ± 930	2355 ± 1071	2561 ± 827	2389 ± 941
Hemoglobin (g/dL)	13.7 ± 1.2	13.5 ± 1.7	14.4 ± 1.3	14.0 ± 1.2
Platelets (×10 ⁴ /mm ³)	16.0 ± 5.9	16.6 ± 6.2	18.0 ± 5.7	16.8 ± 5.2
ALT (IU/L)	75 ± 51	73 ± 72	57 ± 46	42 ± 32
Histology: activity, 0-1/2-3	29/29		11/7	
Fibrosis, 0-2/3-4	45/14		17/1	
Serum HCV RNA (KIU/mL)	1600	850	1500	700
IL-28B SNP: rs8099917; TT/TG	26/11		10/4	
ITPA SNP: rs1127354; CC/CA	20/7		9/1	
Core 70: wild/mutant	11/11			
Core 91: wild/mutant	15/7			
ISDR: 0-1/≥2	15/1			

ALT, alanine aminotransferase; HCV, hepatitis C virus; IFN, interferon; IL, interleukin; ISDR, IFN-sensitivity determining region; NR, non-response; PEG, pegylated; SNP, single nucleotide polymorphism.

rates of relapsers were significantly higher than those of patients with NR in the previous treatment (relapse, 67%, 36/54 vs NR, 16%, 5/32, P < 0.0001). As for the serum HCV RNA level at the start of re-treatment, although the SVR rate of those patients with 5 log₁₀ IU/mL or more of HCV RNA was 38% (26/69), all patients with less than 5 log₁₀ IU/mL of HCV RNA attained SVR (11/11) (P = 0.0001). As for the IL-28B genotype, among the patients with the major allele, the p-EVR rate was significantly higher and the EOT response rate showed marginal significance compared to that with the minor allele (p-EVR rate, 100%, 23/23 vs 30%, 3/10, P < 0.0001, EOT rate, 92%, 24/26 vs 64%, 7/11, P = 0.05). There was no significant difference of the SVR rate between major and minor alleles (major, 65%, 17/26 vs minor, 36%, 4/11, P = 0.15).

Figure 2(a) shows the result of stratified analysis according to the previous treatment response and HCV RNA at the start of re-treatment. The significant difference in SVR observed between high ($\geq 5 \log_{10} IU/mL$) and low ($< 5 \log_{10} IU/mL$) baseline viral loads was still found in both previous relapsers (P = 0.02) and previous non-responders (P = 0.02). In patients with a high baseline viral load, previous relapsers achieved a higher

SVR rate than previous non-responders (P < 0.0001). Next, the results of stratified analyses according to IL-28B genotype and previous treatment response or HCV RNA at the start of re-treatment showed no significant difference in SVR rates between the IL-28B genotype in patients with relapse after previous treatment (P = 0.63) (Fig. 2b). All patients with less than 5 \log_{10} IU/mL of HCV RNA achieved SVR despite their IL-28B genotype and the SVR rates of patients with 5 log₁₀ IU/mL or more of HCV RNA did not differ between IL-28B genotypes (Fig. 2c). Multivariate analysis among the factors of relapse to previous treatment response, HCV RNA at the start of re-treatment and IL-28B genotype showed that relapse after previous treatment response bore the most predictable relationship to SVR in re-treatment (P = 0.074).

As for the efficacy of re-treatment according to treatment duration among patients with HCV RNA negativity during re-treatment, the SVR rate of 72-week treatment was significantly higher than that of 48-week treatment (72 weeks, 73%, 29/40, vs 48 weeks, 52%, 12/25, P < 0.05). This significant difference was especially found in patients who attained c-EVR but not RVR on re-treatment (72 weeks, 73%, 16/22, vs 48 weeks,

Table 2 Baseline characteristics of patients and treatment factors according to the virological response in previous treatment among patients with genotype 1

patients with genotype 1					
Factor	Relapser in previ	ous treatment	NR in previous treatment		
No.	54		32		
Sex: male/female	28/26		18/14		
	Previous treatment	Re-treatment	Previous treatment	Re-treatment	
PEG IFN type: α-2a/α-2b	0/54	29/25	0/32	12/20	
Age (years)	58.1 ± 8.1	60.3 ± 8.4	57.9 ± 8.9	59.6 ± 8.8	
White blood cells (/mm³)	4917 ± 1290	4692 ± 1035	4546 ± 1520	4462 ± 1993	
Neutrophils (/mm³)	2618 ± 846	2479 ± 805	2225 ± 1033	2105 ± 1454	
Hemoglobin (g/dL)	13.9 ± 1.2	13.7 ± 1.6	13.5 ± 1.3	13.1 ± 1.9	
Platelets (×10 ⁴ /mm ³)	17.1 ± 6.3	17.7 ± 6.1	14.1 ± 4.7	14.7 ± 6.2	
ALT (IU/L)	75 ± 57	70 ± 76	75 ± 39	78 ± 64	
Histology: activity, 0-1/2-3	20/18		9/11		
Fibrosis, 0-2/3-4	31/8		14/6		
Serum HCV RNA (KIU/mL)	1600	980	1550	800	
IL-28B SNP: rs8099917; TT/TG	24/5		2/6		
ITPA SNP: rs1127354; CC/CA	15/6		5/1		
Core 70: wild/mutant	6/6		5/5		
Core 91: wild/mutant	9/3	6/4			
ISDR: 0-1/≥2	9/0		6/1		

ALT, alanine aminotransferase; HCV, hepatitis C virus; IFN, interferon; IL, interleukin; ISDR, IFN-sensitivity determining region; NR, non-response; PEG, pegylated; SNP, single nucleotide polymorphism.

38%, 5/13, P < 0.05) but not in patients who attained RVR or LVR (Fig. 3).

In genotype 2, the HCV RNA negative rate on re-treatment was 59% (16/27) at week 4, 85% (23/27) at week 12 and 93% (25/27) at week 24, and the SVR rate was 63% (17/27). The two patients with NR in previous treatment did not attain SVR with re-treatment. The factors associated with SVR were assessed by univariate analysis and only the factor of younger age at the start of re-treatment showed marginal significance (P = 0.06) (Table 4). Among the patients with RVR on re-treatment, the SVR rates were similar at 75% (6/8) to those with 24-week and 48-week treatment.

DISCUSSION

PAST STUDIES HAVE revealed that the factors of age, sex, progression of liver fibrosis, value of HCV RNA, number of mutations in the ISDR, amino acid substitutions in the core region, drug adherence and treatment duration show association with HCV eradication in PEG IFN plus ribavirin combination for naïve patients with CH-C.3-5,25-33 Recently, the IL-28B genotype has been reported to be the most powerful factor associated with the antiviral effect of this combination therapy. 21-25

While the predictive factors for SVR in PEG IFN plus ribavirin combination therapy for naïve patients have been actively analyzed, those factors for patients who had already experienced this therapy are still unclear. Especially needing assessment is the correlation between IL-28B SNP or the previous treatment response and the antiviral effect in re-treatment. In this study, we tried to determine which factors could most effectively predict the antiviral effect in re-treatment.

In the present study, patients with relapse after the previous treatment and patients with a low serum HCV RNA level at the start of re-treatment showed significantly different results in this study of re-treatment of CH-C patients who had previously failed to attain SVR with PEG IFN plus ribavirin therapy. This result was similar to those of the EPIC³ study on relapse and NR¹⁷ and the SYREN trial of NR.18 On the other hand, there was no significant difference between the influence of the IL-28B genotype and SVR. More specifically, if the previous treatment response was the same, there was no difference regardless of the IL-28B genotype. Considering this result, in re-treatment, the previous treatment response was a more effective predictive factor than IL-28B genotype. However, further investigation is needed to clarify the association between IL-28B

Table 3 Factors associated with a sustained virological response in re-treatment with PEG IFN plus ribavirin in patients with genotype 1

Factor		SVR	Non-SVR	<i>P</i> -value
No. of patients		41	45	
Age (years)		60.2 ± 7.1	59.9 ± 9.6	0.71
Sex: male/female		24/17	22/23	0.40
Serum HCV RNA (log IU/mL)		5.8 ± 1.4	6.4 ± 0.6	0.11
Serum HCV RNA: <5 log/≥5 log		11/28	0/43	< 0.001
White blood cells (/mm³)		4656 ± 1029	4566 ± 1763	0.42
Neutrophils (/mm³)		2443 ± 804	2259 ± 1301	0.16
Hemoglobin (g/dL)		13.5 ± 1.6	13.4 ± 1.8	0.80
Platelets ($\times 10^4/\text{mm}^3$)		16.9 ± 5.7	16.3 ± 6.7	0.36
ALT (IU/L)		68 ± 69	78 ± 75	0.43
IL-28B SNP: TT/TG		17/4	9/7	0.15
ITPA SNP: CC/CA		13/3	7/4	0.39
Core 70: wild/mutant		5/4	6/7	1.00
Core 91: wild/mutant		7/3	8/5	1.00
ISDR: 0-1/≥2		9/0	6/1	0.44
PEG IFN: α -2a/ α -2b		16/25	25/20	0.14
PEG IFN dose (µg/kg per week)	α-2a	2.91 ± 0.77	2.74 ± 0.69	0.61
, <u>.</u> ,	α-2b	1.25 ± 0.39	1.20 ± 0.32	0.59
Ribavirin dose (mg/kg per day)		9.34 ± 2.72	9.64 ± 3.20	0.51
1st treatment virological response	Relapse/NR	36/5	18/27	< 0.001

ALT, alanine aminotransferase; HCV, hepatitis C virus; IFN, interferon; IL, interleukin; ISDR, IFN-sensitivity determining region; NR, non-response; PEG, pegylated; SNP, single nucleotide polymorphism; SVR, sustained virological response.

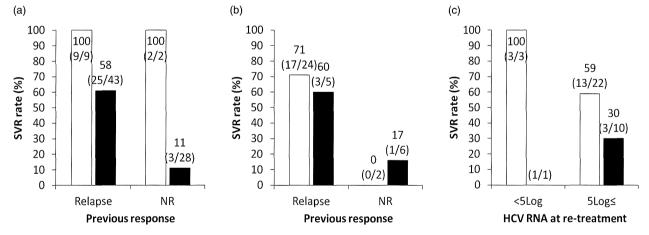


Figure 2 Sustained virological response (SVR) rates according to previous virological response, hepatitis C virus (HCV) RNA at start of re-treatment and genotype of interleukin (IL)-28B single nucleotide polymorphism (SNP) in patients with genotype 1. (a) Stratified analysis of previous virological response and HCV RNA at start of re-treatment. □, HCV RNA <5 log IU/mL at start of re-treatment; ■, HCV RNA ≥5 log IU/mL at start of re-treatment. (b) Stratified analysis of previous virological response and genotype of IL-28B SNP. □, Patients with major allele of IL-28B SNP. (c) Stratified analysis of HCV RNA at start of re-treatment and genotype of IL-28B SNP. □, Patients with major allele of IL-28B SNP; ■, patients with minor allele of IL-28B SNP.

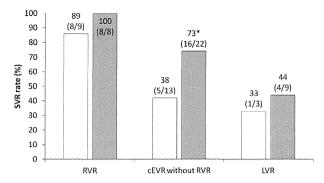


Figure 3 Sustained virological response (SVR) rates according to virological response in re-treatment and treatment duration in patients with genotype 1. \square . Patients treated for 48 weeks: \square . patients treated for 72 weeks. RVR, rapid virological response; cEVR, complete early virological response; LVR, late virological response. *P < 0.05; compared to 48 weeks of treatment.

genotype and antiviral effect of re-treatment because of their small number in this study. In this study, only one patient with the minor allele of IL-28B and NR in previous treatment could start and continue with the increased dose of PEG IFN (from 1.37 µg/kg in the previous treatment to 1.79 µg/kg in re-treatment) and ribavirin (from 10.3 mg/kg per day in the previous treatment to 11.1 mg/kg per day in re-treatment) and attained SVR by extended treatment. If the drug

adherence does not improve, patients with the minor allele of IL-28B who show NR in the previous treatment should be treated with new drugs.

The next question is how the patients should be re-treated in order to attain SVR on re-treatment. In this study, the patients with a low serum HCV RNA level (<5 log₁₀ IU/mL) at the start of re-treatment showed a significant rate of cure on re-treatment, and this is almost the same result as that previously reported. 16,17 In this study, the two patients with NR in the previous treatment and with less than 5 log₁₀ IU/mL of HCV RNA level (20 KIU/mL and 52 KIU/mL of HCV RNA) at the start of re-treatment attained SVR. On the other hand, even if the previous treatment response was a relapse, the SVR rates were 58% (25/43) among the patients with 5 log₁₀ IU/mL or more of HCV RNA. Because the HCV RNA level changed after the antiviral treatment, it is important to not miss the timing of when the HCV RNA level is low.

With respect to treatment duration among patients with HCV RNA negativiation during re-treatment, 72 weeks of treatment significantly increased the SVR rate compared to 48 weeks. This result was almost the same as that of the REPEAT study.16 In our present study, the SVR rate among the patients with c-EVR but not RVR in re-treatment was significantly high by 72 weeks of treatment. On the other hand, the SVR rates among the

Table 4 Factors associated with a sustained virological response in re-treatment with PEG IFN plus ribavirin in patients with genotype 2

Factor		SVR	Non-SVR	<i>P</i> -value
No. of patients		17	10	
Age (years)		57.7 ± 8.8	63.7 ± 5.1	0.06
Sex: male/female		7/10	8/2	0.11
Serum HCV RNA (log IU/mL)		5.4 ± 1.4	6.1 ± 0.8	0.15
Serum HCV RNA: <5 log/≥5 log		5/11	1/9	0.35
White blood cells (/mm³)		5049 ± 1355	4171 ± 910	0.10
Neutrophils (/mm³)		2556 ± 1064	1999 ± 404	0.24
Hemoglobin (g/dL)		14.1 ± 1.3	13.8 ± 1.6	0.51
Platelets (×10 ⁴ /mm ³)		17.9 ± 5.4	14.8 ± 4.3	0.17
ALT (IU/L)		38 ± 19	48 ± 47	0.71
IL-28B SNP: TT/TG		6/2	4/2	1.00
ITPA SNP: CC/CA		5/1	4/0	1.00
PEG IFN: α -2a/ α -2b		4/13	2/8	1.00
PEG IFN dose (µg/kg per week)	α-2a	3.23 ± 0.34	2.24 ± 2.25	1.00
	α-2b	1.32 ± 0.28	1.18 ± 0.23	0.21
Ribavirin dose (mg/kg per day)	10.4 ± 2.21	10.1 ± 1.31	0.44	
1st treatment virological response	RVR/non-RVR	4/13	3/7	1.00

ALT, alanine aminotransferase; HCV, hepatitis C virus; IFN, interferon; IL, interleukin; ISDR, IFN-sensitivity determining region; PEG, pegylated; RVR, rapid virological response; SNP, single nucleotide polymorphism; SVR, sustained virological response.

patients with RVR in re-treatment were similar between the patients with 48 weeks and 72 weeks of treatment. Thus, patients with c-EVR but not RVR in re-treatment should be re-treated for a longer period. In order to attain better SVR, extended treatment duration is generally recommended for patients with on-treatment LVR, whereas standard treatment duration is considered to be sufficient for patients with on-treatment c-EVR. However, the present study revealed that, even if patients achieved c-EVR on re-treatment, 72 weeks of treatment seems to be better than 48 weeks for treatmentexperienced patients. The majority of naïve patients showing on-treatment c-EVR could eradicate HCV with 48 weeks of treatment while some could not. In a treatment-experienced setting, patients who are able to respond early but not eradicate HCV would be selected, and therefore extended treatment may be needed.

With genotype 2, the SVR rate was relatively high (63%). The patients who could not attain SVR in re-treatment (two patients) showed NR in the previous treatment. Thus, the patients with genotype 2 and showing NR in previous treatment seemed to be difficult to treat and could be treated with other drugs. Among the patients with RVR in re-treatment, the SVR rates were similar among those with RVR in re-treatment between 24 weeks and 48 weeks of treatment. The effectiveness of extended treatment for the patients with genotype 2 in re-treatment could not be demonstrated because of their small number in this study. Further investigation is needed to clarify this.

In conclusion, this study shows that the efficacy of re-treatment for genotype 1 patients who failed to show SVR to previous treatment with PEG IFN plus ribavirin could be predicted from the previous treatment response and a low HCV RNA level at the start of re-treatment. Re-treatment for 72 weeks led to clinical improvement for genotype 1 patients with c-EVR and without RVR on re-treatment.

ACKNOWLEDGMENT

THIS WORK WAS supported by a Grant-in-Aid for Research on Hepatitis from Ministry of Health Labor and Welfare of Japan, and Scientific Research from the Ministry of Education, Science, and Culture of Japan.

REFERENCES

1 Ghany MG, Strader DB, Thomas DL, Seeff LB. Diagnosis, management, and treatment of hepatitis C: an update. *Hepatology* 2009; 49: 1335–74.

- 2 Hayashi N, Takehara T. Antiviral therapy for chronic hepatitis C: past, present, and future. *J Gastroenterol* 2006; 41: 17–27.
- 3 Manns MP, McHutchison JG, Gordon SC *et al.* Peginterferon alfa-2b plus ribavirin compared with interferon alfa-2b plus ribavirin for initial treatment of chronic hepatitis C: a randomised trial. *Lancet* 2001; 358: 958–65.
- 4 Fried MW, Shiffman ML, Reddy KR *et al.* Peginterferon alfa-2a plus ribavirin for chronic hepatitis C virus infection. *N Engl J Med* 2002; 347: 975–82.
- 5 Hadziyannis SJ, Sette H, Jr, Morgan TR *et al.* Peginterferonalpha2a and ribavirin combination therapy in chronic hepatitis C: a randomized study of treatment duration and ribavirin dose. *Ann Intern Med* 2004; **140**: 346–55.
- 6 Zeuzem S, Hultcrantz R, Bourliere M et al. Peginterferon alfa-2b plus ribavirin for treatment of chronic hepatitis C in previously untreated patients infected with HCV genotypes 2 or 3. J Hepatol 2004; 40: 993–9.
- 7 McHutchison JG, Everson GT, Gordon SC *et al*. Telaprevir with peginterferon and ribavirin for chronic HCV genotype 1 infection. *N Engl J Med* 2009; 360: 1827–38.
- 8 Hezode C, Forestier N, Dusheiko G *et al*. Telaprevir and peginterferon with or without ribavirin for chronic HCV infection. *N Engl J Med* 2009; **360**: 1839–50.
- 9 McHutchison JG, Manns MP, Muir AJ et al. Telaprevir for previously treated chronic HCV infection. N Engl J Med 2010; 362: 1292–303.
- 10 Kumada H, Toyota J, Okanoue T, Chayama K, Tsubouchi H, Hayashi N. Telaprevir with peginterferon and ribavirin for treatment-naive patients chronically infected with HCV of genotype 1 in Japan. J Hepatol 2012; 56: 78–84.
- 11 Hayashi N, Okanoue T, Tsubouchi H, Toyota J, Chayama K, Kumada H. Efficacy and safety of telaprevir, a new protease inhibitor, for difficult-to-treat patients with genotype 1 chronic hepatitis C. *J Viral Hepat* 2012; 19: 134–42.
- 12 Reesink HW, Fanning GC, Farha KA *et al.* Rapid HCV-RNA decline with once daily TMC435: a phase I study in healthy volunteers and hepatitis C patients. *Gastroenterology* 2010; **138**: 913–21.
- 13 Lok AS, Gardiner DF, Lawitz E *et al*. Preliminary study of two antiviral agents for hepatitis C genotype 1. *N Engl J Med* 2012; **366**: 216–24.
- 14 Chayama K, Takahashi S, Toyota J *et al.* Dual therapy with the NS5A inhibitor BMS-790052 and the NS3 protease inhibitor BMS-650032 in HCV genotype 1b-infected null responders. *Hepatology* 2012; 55: 742–8.
- 15 Bacon BR, Shiffman ML, Mendes F *et al.* Retreating chronic hepatitis C with daily interferon alfacon-1/ribavirin after nonresponse to pegylated interferon/ribavirin: DIRECT results. *Hepatology* 2009; 49: 1838–46.
- 16 Jensen DM, Marcellin P, Freilich B *et al*. Re-treatment of patients with chronic hepatitis C who do not respond to peginterferon-alpha2b: a randomized trial. *Ann Intern Med* 2009; **150**: 528–40.

- 17 Poynard T, Colombo M, Bruix J et al. Peginterferon alfa-2b and ribavirin: effective in patients with hepatitis C who failed interferon alfa/ribavirin therapy. Gastroenterology 2009; 136: 1618-28.
- 18 Chevaliez S, Hezode C, Soulier A et al. High-dose pegylated interferon-alpha and ribavirin in nonresponder hepatitis C patients and relationship with IL-28B genotype (SYREN trial). Gastroenterology 2011; 141: 119-27.
- 19 Berg C, Goncales FL, Jr, Bernstein DE et al. Re-treatment of chronic hepatitis C patients after relapse: efficacy of peginterferon-alpha-2a (40 kDa) and ribavirin. J Viral Hepat 2006; 13: 435-40.
- 20 Oze T, Hiramatsu N, Yakushijin T et al. Efficacy of re-treatment with pegylated interferon plus ribavirin combination therapy for patients with chronic hepatitis C in Japan. J Gastroenterol 2011; 46: 1031-7.
- 21 Thomas DL, Thio CL, Martin MP et al. Genetic variation in IL28B and spontaneous clearance of hepatitis C virus. Nature 2009: 461: 798-801.
- 22 Suppiah V, Moldovan M, Ahlenstiel G et al. IL28B is associated with response to chronic hepatitis C interferonalpha and ribavirin therapy. Nat Genet 2009; 41: 1100-4.
- 23 Tanaka Y, Nishida N, Sugiyama M et al. Genome-wide association of IL28B with response to pegylated interferonalpha and ribavirin therapy for chronic hepatitis C. Nat Genet 2009; 41: 1105-9.
- 24 Thompson AJ, Muir AJ, Sulkowski MS et al. Interleukin-28B polymorphism improves viral kinetics and is the strongest pretreatment predictor of sustained virologic response in hepatitis C virus-1 patients. Gastroenterology 2010; 139: 120-9.
- 25 Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N et al. Pre-treatment prediction of response to pegylated-interferon plus ribavirin for chronic hepatitis C using genetic polymorphism in IL28B and viral factors. J Hepatol 2011; 54: 439-48.

- 26 Akuta N, Suzuki F, Kawamura Y et al. Predictive factors of early and sustained responses to peginterferon plus ribavirin combination therapy in Japanese patients infected with hepatitis C virus genotype 1b: amino acid substitutions in the core region and low-density lipoprotein cholesterol levels. J Hepatol 2007; 46: 403-10.
- 27 Berg T, von Wagner M, Nasser S et al. Extended treatment duration for hepatitis C virus type 1: comparing 48 versus 72 weeks of peginterferon-alfa-2a plus ribavirin. Gastroenterology 2006; 130: 1086-97.
- 28 Mangia A, Minerva N, Bacca D et al. Individualized treatment duration for hepatitis C genotype 1 patients: a randomized controlled trial. Hepatology 2008; 47: 43-50.
- 29 Oze T, Hiramatsu N, Yakushijin T et al. The efficacy of extended treatment with pegylated interferon plus ribavirin in patients with HCV genotype 1 and slow virologic response in Japan. J Gastroenterol 2011; 46: 944-52.
- 30 Oze T, Hiramatsu N, Yakushijin T et al. Indications and limitations for aged patients with chronic hepatitis C in pegylated interferon alfa-2b plus ribavirin combination therapy. J Hepatol 2011; 54: 604-11.
- 31 McHutchison JG, Manns M, Patel K et al. Adherence to combination therapy enhances sustained response in genotype-1-infected patients with chronic hepatitis C. Gastroenterology 2002; 123: 1061-9.
- 32 Oze T, Hiramatsu N, Yakushijin T et al. Pegylated interferon alpha-2b (Peg-IFN alpha-2b) affects early virologic response dose-dependently in patients with chronic hepatitis C genotype 1 during treatment with Peg-IFN alpha-2b plus ribavirin. J Viral Hepat 2009; 16: 578-85.
- 33 Hiramatsu N, Oze T, Yakushijin T et al. Ribavirin dose reduction raises relapse rate dose-dependently in genotype 1 patients with hepatitis C responding to pegylated interferon alpha-2b plus ribavirin, I Viral Hepat 2009; 16: 586-

ORIGINAL ARTICLE-LIVER, PANCREAS, AND BILIARY TRACT

Association of enhanced activity of indoleamine 2,3-dioxygenase in dendritic cells with the induction of regulatory T cells in chronic hepatitis C infection

Koyo Higashitani · Tatsuya Kanto · Shoko Kuroda · Sachiyo Yoshio · Tokuhiro Matsubara · Naruyasu Kakita · Tsugiko Oze · Masanori Miyazaki · Mitsuru Sakakibara · Naoki Hiramatsu · Eiji Mita · Yasuharu Imai · Akinori Kasahara · Alato Okuno · Osamu Takikawa · Norio Hayashi · Tetsuo Takehara

Received: 12 June 2012/Accepted: 15 August 2012

© Springer 2012

Abstract

Background Altered functions of dendritic cells (DCs) and/or increases of regulatory T cells (Tregs) are involved in the pathogenesis of chronic hepatitis C virus (HCV) infection. A tryptophan-catabolizing enzyme, indoleamine 2,3-dioxygenase (IDO), is reported to be an inducer of immune tolerance. Our aim was to clarify whether or not

Electronic supplementary material The online version of this article (doi:10.1007/s00535-012-0667-z) contains supplementary material, which is available to authorized users.

K. Higashitani \cdot T. Kanto (\boxtimes) \cdot S. Kuroda \cdot S. Yoshio \cdot

T. Matsubara · N. Kakita · T. Oze · M. Miyazaki ·

N. Hiramatsu · T. Takehara

Department of Gastroenterology and Hepatology, Osaka University Graduate School of Medicine,

2-2 Yamadaoka, Suita, Osaka, Japan e-mail: kantot@gh.med.osaka-u.ac.jp

M. Sakakibara

Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, 1-3-3 Nakamichi, Higashinari, Osaka, Japan

E. Mita

National Hospital Organization Osaka National Hospital, 2-1-14 Hoenzaka, Chuo, Osaka, Japan

Y. Imai

Ikeda Municipal Hospital, 3-1-18 Jonan, Ikeda, Osaka, Japan

A. Kasahara

Department of General Medicine, Osaka University Hospital, 2-15 Yamadaoka, Suita, Osaka, Japan

A. Okuno · O. Takikawa

Published online: 14 September 2012

Laboratory of Radiation Safety, National Center for Geriatrics and Gerontology, 35 Gengo, Morioka, Obu, Aichi, Japan

N. Hayashi

Kansai Rosai Hospital, 3-1-69 Amagasaki, Hyogo, Japan

IDO is activated in chronic hepatitis C patients and its role in immune responses.

Methods This study enrolled 176 patients with chronic HCV infection and 37 healthy volunteers. Serum kynurenine concentration was evaluated by high-performance liquid chromatography, and its correlation with clinical parameters was examined. Monocyte-derived DCs were prepared from the subjects and subsequently stimulated with a combination of lipopolysaccharide and interferon-gamma to induce functional IDO (defined as IDO-DCs). The phenotypes, kynurenine or cytokine production, and T-cell responses with IDO-DCs were compared between the patients and healthy volunteers.

Results The serum kynurenine level in the patients was significantly higher than that in the healthy volunteers, and the level of serum kynurenine was positively correlated with the histological activity or fibrosis score. IDO activity in IDO-DCs from the patients was significantly higher than that in IDO-DCs from the volunteers. Furthermore, IDO-DCs from the patients induced more Tregs in vitro compared with those from the volunteers, and the frequency of induced Tregs by IDO-DCs was decreased with an IDO-specific inhibitor.

Conclusions Systemic IDO activity is enhanced in chronic hepatitis C patients in correlation with the degree of liver inflammation and fibrosis. In response to inflammatory stimuli, DCs from the patients tend to induce Tregs, with some of this action being dependent on IDO.

Keywords Hepatitis C virus · Dendritic cell · Regulatory T cell · Indoleamine 2,3-dioxygenase

Introduction

Hepatitis C virus (HCV) is a major cause of chronic liver disease worldwide. It is estimated that 170 million people

🖄 Springer

are chronically infected with HCV and are at risk of developing liver cirrhosis and/or hepatocellular carcinoma [1]. Approximately 70 % of those exposed to HCV progress to a chronically infected state [2]. The mechanisms of HCV leading to persistent infection have been ascribed to escape mutations of the HCV genome and insufficient immune responses to HCV in hosts, but the precise mechanisms are still largely unknown.

Dendritic cells (DCs) are key regulators of the immune system and are capable of promoting or suppressing T-cell responses depending on their environment [3, 4]. One of the crucial machineries of HCV-induced immune dysfunction is impaired abilities of DCs. Several research groups, including ours [5, 6] have demonstrated that DCs from chronically HCV-infected patients have lower ability to stimulate T cells and to drive T-helper 1 (Th1) polarization than those from healthy controls [7, 8]. Regulatory T cells (Tregs) are specialized suppressor cells that maintain immune tolerance against auto-reactive T cells or against pathogens [9]. In patients with chronic HCV infection, the frequency of Tregs in peripheral blood mononuclear cells (PBMCs) is higher than that in healthy individuals, suggesting the active roles of Tregs in immune alteration or alleviation of inflammation [10, 11]. However, the mechanisms of DC dysfunction or Treg expansion in chronic HCV infection have not been completely elucidated.

Indoleamine 2,3-dioxygenase (IDO) is an enzyme that catalyzes the initial and rate-limiting steps in the catabolism of the essential amino acid tryptophan (Trp), resulting in the generation of kynurenine (Kyn). IDO is widely expressed in human tissues [12] and cell subsets [13] and is induced during inflammation by interferon-gamma (IFN-γ) and/or other inflammatory cytokines [14-16]. Recent studies have demonstrated a crucial role of IDO in the induction of immune tolerance during infection, pregnancy, transplantation, autoimmunity, and cancers [17-21]. IDO expressed by DCs promotes immune tolerance by inhibiting T-cell activation and proliferation or by inducing Tregs through Trp starvation and/or the accumulation of Trp catabolites, such as Kyn, 3-hydroxykynurenine, and 3-hydroxyanthranilic acid [22-25]. With respect to chronic HCV infection, a small-sized study showed that IDO expression was up-regulated in the liver and was associated with increased serum IDO activity [26]. However, the functions of IDO in immune cells in HCV infection still remain obscure.

In this study, we aimed to clarify whether or not IDO in DCs has a role in chronic HCV infection. We found that systemic IDO activity was enhanced in chronic hepatitis C patients. By comprehensively comparing the function of IDO-expressing DCs between the patients and healthy volunteers, we showed that IDO in DCs may be related to the induction of Tregs.

Subjects, materials, and methods

Subjects

This study enrolled 176 patients chronically infected with HCV serotype 1 (CHC group) who had been followed at Osaka University Hospital (Suita, Japan), National Hospital Organization Osaka National Hospital (Osaka, Japan), or Ikeda Municipal Hospital (Ikeda, Japan). All of them were confirmed to be positive for both serum anti-HCV antibody and HCV-RNA but were negative for other viral infections, including hepatitis B virus (HBV) and human immunodeficiency virus. The presence of other liver diseases, such as alcoholic, metabolic, or autoimmune hepatitis was ruled out, and the presence of liver cirrhosis and hepatocellular carcinoma was excluded by the use of laboratory and imaging analyses. As controls, we examined 37 healthy volunteers (HV group), working as medical staff at Osaka University Hospital, who were negative for HCV and HBV markers. As disease controls, 13 patients with chronic HBV infection followed at National Hospital Organization Osaka National Hospital were also enrolled. They were positive for hepatitis B surface (HBs) antigen and had abnormal levels of alanine aminotransferase (ALT). The characteristics of the group were: male/ female 10/3, hepatitis B envelope (HBe) antigen-positive/ HBe antigen-negative 6/7, mean age 43.9 ± 15.0 years, mean serum ALT level 218.7 \pm 282.5 IU/L, and mean HBV-DNA level [assayed by the COBAS AmpliPrepTM/ COBAS TaqManTM HBV test (Roche, Branchburg, NJ, USA)] 6.1 ± 2.3 Log copies/mL. At enrollment, written informed consent was obtained from each subject. The study protocol was approved by the ethics committee of each institution.

In this study, because of the limitations of sampling from multiple centers, the conditions for blood collection and preservation differed among the facilities. Thus, for the precise comparison of IDO activity between the patients and healthy volunteers, firstly, we examined the samples collected and preserved under the same conditions at Osaka University Hospital (Cohort I, Table 1). Secondly, because liver biopsy was not carried out in Cohort I patients, we used another cohort (Cohort II, Table 1) for our analysis of the correlation between IDO activity and clinical parameters. Cohort II consisted of the remaining 127 patients, whose samples were collected at National Hospital Organization Osaka National Hospital or Ikeda Municipal Hospital. Histological examination was performed according to the METAVIR scoring system. The clinical backgrounds of the patients in Cohorts I and II, except for HCV-RNA quantity, were not different.



Table 1 Clinical backgrounds of subjects

	HV (Cohort I)	CHC (Cohort I)	CHC (Cohort II)
N	37	49	127
Male/female	20/17	24/25	58/69
Age (years) ^a	44.3 ± 14.6^{b}	57.8 ± 12.6	56.5 ± 10.9
ALT (IU/L) ^a	ND	55.8 ± 39.9	64.6 ± 47.9
Plts $(\times 10^4/\mu L)^a$	ND	16.8 ± 6.4	17.3 ± 6.1
HCV-RNA ^c (Log copies/mL) ^a	ND	6.1 ± 1.0	6.6 ± 0.6^{b}
METAVIR activity (A0/1/2/3)	ND	ND	10/78/35/4
METAVIR fibrosis (F0/1/2/3/4)	ND	ND	0/70/29/21/7

CHC chronic hepatitis C patients, HV healthy volunteers, ALT alanine aminotransferase, Plts platelets, ND not determined

Reagents and antibodies

Recombinant human interleukin-4 (IL-4) and granulocyte/macrophage colony-stimulating factor (GM-CSF) were purchased from PeproTech (Rocky Hill, NJ, USA). Recombinant human IFN-γ was purchased from R&D Systems (Minneapolis, MN, USA). Lipopolysaccharide (LPS) from *Escherichia coli*, L-tryptophan, L-kynurenine, and 1-methyl-L-tryptophan (1-MT) were purchased from Sigma-Aldrich (St. Louis, MO, USA). Fluorescein monoclonal antibodies (mAbs) against human CD4 (clone, SK3), CD11c (B-ly6), CD25 (M-A251), CD40 (5C3), CD80 (L307.4), CD86 (IT2.2), CD127 (HIL-7R-M21), CD274/PD-L1 (MIH1), HLA-DR (L243), Foxp3 (259D/C7), and isotype control Abs were purchased from BD Biosciences (San Jose, CA, USA).

Generation of CD14+ monocyte-derived dendritic cells

Monocyte-derived DCs (MoDCs) were generated from CD14+ cells as reported previously [27]. In brief, CD14+ cells were cultured for 7 days at 37 °C and 5 % CO2 in DC culture medium [Iscove's modified Dulbecco's medium (IMDM; Gibco Laboratories, Grand Island, NY, USA) supplemented with 10 % fetal calf serum, 50 IU/mL of penicillin, 50 mg/mL of streptomycin, 2 mM of L-glutamine, 10 mM of Hepes buffer, and 10 mM of nonessential amino acids] in the presence of 20 ng/mL of IL-4 and 50 ng/mL of GM-CSF. On day 5 of the culture, cells were stimulated with 50 ng/mL of LPS and/or 50 ng/mL of IFN- γ to induce functional IDO, and cultured for 48 h. On day 7, cells were harvested and subjected to phenotypic and functional analysis. At the same time, the supernatant of the culture was also collected and subjected to cytokine assays. As controls, unstimulated MoDCs were also prepared.

Flow cytometric analysis

For the analysis of cell surface markers, cells were stained as reported previously [27]. In this study, Tregs were defined as CD4+CD25+CD127-Foxp3+ cells, the frequency of which in PBMCs was analyzed as reported previously [11]. Flow cytometric analyses were performed with the use of a FACSCantoII flow cytometer (BD Biosciences). Analyses of data were done with FACSDiva 6.1 software (BD Biosciences).

Analysis of IDO activity by high-performance liquid chromatography (HPLC)

For the measurement of Kyn and Trp, the HPLC analysis was performed according to the procedure developed by Takikawa et al. [28]. As an index of IDO activity in vivo, the serum kynurenine-to-tryptophan ratio (KTR) was determined by HPLC [26, 29], after deproteinization by the addition of one-tenth volume 2.4 M perchloric acid and centrifugation at $20000\times g$ for 10 min. To assay the functional IDO in MoDCs in vitro, the cells were harvested on day 7 of the culture, washed, and resuspended in Hanks' balanced salt solution (HBSS; Gibco Laboratories) containing 100 μ M L-Trp. The cells were incubated for an additional 24 h, and Kyn in the culture supernatants was determined by HPLC. IDO activity in vitro was expressed as the concentration of Kyn (μ M) in the supernatant, converted from 100 μ M L-Trp by IDO.

T-cell stimulation and cytokine analyses

Naive CD4+ T cells were isolated from the allogeneic healthy volunteer using a Naive CD4+ T Cell Isolation Kit II (Miltenyi Biotec, Auburn, CA, USA) according to the manufacturer's instructions. After 7 days of the culture, the

 $^{^{\}rm a}$ Values are expressed as means \pm SD

b Statistical significance was analyzed by the Mann-Whitney U-test (P < 0.05), compared with CHC group (Cohort I)

^c Serum HCV-RNA titer was quantitated using the COBAS AmpliPrepTM/COBAS TaqManTM HCV test (Roche)

graded numbers of IDO-DCs (MoDCs stimulated with LPS and IFN- γ for 48 h) were co-cultured with 1 \times 10⁵ naive CD4+ T cells in DC culture medium for 4 days. An IDO-specific inhibitor, 1-MT, was used to confirm the specificity of the IDO activity in the T-cell responses. On day 0 of the co-culture, 1-MT was added to IDO-DCs and T-cell cultures at a final concentration of 1 mM. On day 4, half of the supernatants were collected to assess the Th1/Th2 polarization, which was done by measuring the various cytokines. Next, WST-8 reagent in the Cell Counting Kit-8 (Dojindo Laboratories, Kumamoto, Japan) was added to the cultures, followed by incubation for 4 h. The T-cell proliferation index was measured at the absorbance 450 nm of reduced WST-8 using the plate reader. Assays were performed in triplicate wells.

Cytokine bead assay

To analyze the cytokine secretion of IDO-DCs and of naive CD4+ T cells primed with IDO-DCs, the concentrations of IL-2, IL-4, IL-6, IL-10, IL-12p70, IL-13, IFN- γ , or tumor necrosis factor-alpha (TNF- α) in the supernatants were assayed using the Cytometric Bead Array System (BD Biosciences) according to the manufacturer's instructions.

Treg induction

To assess the potential effects of IDO on Treg induction from naive CD4+ T cells, the cells were primed with allogeneic IDO-DCs at a 10:1 ratio in HBSS containing 100 μM L-Trp. After 7 days, the primed T cells were harvested and assessed for their surface phenotype and intracellular Foxp3 expression. Phenotyping of the cells after the co-culture was performed using anti-CD4-PerCP, anti-CD25-APC, and anti-CD127-PE. To exclude dead lymphocytes after the co-culture, Near-IR LIVE/DEAD Fixable Dead Cell Stain (Invitrogen, Carlsbad, CA, USA) was used, according to the manufacturer's instructions. Next, the cells were fixed, permeabilized, and stained with anti-Foxp3-Alexa Fluor 488, using the Human FoxP3 Buffer Set (BD Biosciences) according to the manufacturer's instructions. The frequency of CD4+CD25+ CD127-Foxp3+ Tregs generated from each priming culture condition was determined by flow cytometry. As described above, 1 mM of 1-MT was added on day 0 to test for IDO-dependent effects.

Statistical analysis

The values were analyzed by nonparametric tests—the Mann—Whitney *U*-test, the Wilcoxon signed rank test, or Spearman's rank correlation test—or by linear regression analysis, using GraphPad Prism software, version 5.04

(Graph Pad Software, San Diego, CA, USA). A *P* value of <0.05 was considered to be statistically significant.

Results

Systemic IDO activity is enhanced in chronic hepatitis C patients

To examine whether or not IDO activity is up-regulated in chronically HCV-infected patients, we compared the serum Kyn and Trp levels between the groups in Cohort I. The serum KTR was significantly higher in the CHC group than that in the HV group (Fig. 1a). Furthermore, we found that the concentration of Kyn in the CHC group was significantly higher than that in the HV group, whereas the levels of Trp were comparable in the two groups (Fig. 1a). These results show that the KTR level in serum, as a surrogate for systemic IDO activity, was higher in chronic hepatitis C patients than in uninfected controls. Furthermore, as the KTR and Kyn levels were correlated (data not shown), the serum Kyn level can be regarded as a surrogate marker for systemic IDO activity.

Next, in order to examine whether or not the enhanced systemic IDO activity was specific for chronically HCV-infected patients, we compared serum Kyn concentrations among chronic hepatitis B patients, chronic hepatitis C patients (Cohort II), and healthy subjects. The serum Kyn concentration in chronic hepatitis B patients was significantly higher than those in the healthy subjects and the patients with chronic hepatitis C (chronic hepatitis B patients: $2.42 \pm 0.11~\mu\text{M}$, healthy subjects, $1.12 \pm 0.09~\mu\text{M}$, chronic hepatitis C patients in Cohort II: $2.04 \pm 0.06~\mu\text{M}$), suggesting that systemic IDO activity is enhanced in chronic HBV infection as well.

Systemic IDO activity correlates with activity grade and fibrosis stage in the liver

Next, to investigate the underlying mechanisms of enhanced IDO activity in chronically HCV-infected patients, we assessed whether or not serum Kyn levels in Cohort II were correlated with various clinical parameters and the METAVIR scores. A significant positive correlation was observed between serum Kyn levels and the histological activity or fibrosis scores (Fig. 1b). However, there was no correlation between the Kyn level and age, ALT level, or HCV-RNA quantity (Fig. 1b). These results show that the more advanced the inflammation and fibrosis of the liver, the higher the serum Kyn, and vice versa. The inverse correlation between serum Kyn and platelet counts was consistent with the correlation between Kyn and the fibrosis score (Fig. 1b).

